

### Wi-fiアクセスポイント

434台 4,392万円  
工事費(284台分)  
1億4,224万円  
※充電保管庫216台含む



### 電子黒板

372台  
1億9,087万円

### 用語解説

### GIGAスクール構想

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する構想です。

### モバイルWi-fiルーター

200台  
186万円



### タブレット端末

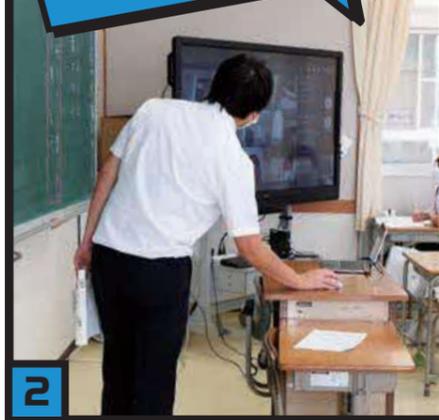
7,630台  
4億6,147万円



## GIGAスクール構想に向けて

市では、GIGAスクール構想の実現に向けた取り組みを令和2年1月から開始。令和2年度中に、市内の全ての小中学校の普通教室などに無線LANおよびタブレット端末用の充電保管庫の整備を行いました。  
また、児童・生徒1人1台のタブレット端末の導入を完了しました。

## 学校をのぞいてみました 西合志中央小学校



- ①みんなで一緒に挨拶をして、いつも通り授業が始まります。
- ②在宅の児童はどんな答えを書いているか見えないので、先生もどきどきだそう。
- ③休み時間には授業の感想を聞いて翌日の連絡を伝えます。



### すべての教科でICTの活用を

電子黒板は平成31年1月、1人1台のタブレットは令和3年4月に導入された西合志中央小学校。9月現在は分散登校が実施され、児童の約半数が自宅でオンライン授業に参加していました。時間を短縮し、オンライン授業でも集中しやすいように30分の短縮授業にするなど工夫しています。授業中は、電子黒板を使い、問題文を双方に見せたり、オンライン授業に参加する子どもたちも先生の質問に手を挙げて、当てられた児童はマイクをオンにして回答したりと、とてもスムーズな授業風景でした。連絡にコミュニケーションソフトを使ったり、図工の設計図を書くのにペイントソフトを使ったり、すべての教科がICT教育につながっています。今後はモバイルWi-Fiルーターを使って、体育や校外学習にもタブレット端末を活用する予定です。

### Q & A

**Q** オンライン授業中に回線の不具合でつながらなくなったらどうしているの。

**A** 回線が切れた時の学習プリントを事前に渡して、それで自習するように生徒に伝えていきます。また、オンライン授業後は通信状態に問題なかったか、授業は聞き取れたかなどを確認し、次回のオンライン授業がスムーズに進むよう対策を立てています。

**Q** 子どもが動画サイトやSNSばかり見ているのが心配。学校ではどのような指導をしているの。

**A** 学校から貸し出している端末はセキュリティがかかっており有害なサイトは見られないようになっています。道徳や学活・生徒指導の中で、情報モラルやインターネットリテラシーについて指導しています。家庭にもさまざまなインターネット端末があると思うので、保護者と子どもで利用方法のルールをぜひ話し合ってみてください。

**Q** 市が現在の端末を導入した理由は。

**A** タブレット端末の3種類のOS (WindowsOS・chromeOS・iOS) について、比較検討作業と各校の教諭へ説明を行ない、アンケートをとった結果、WindowsOSとなりました。①電子黒板との相性が良い、②オフラインでも端末の操作ができる、③教師用のノートパソコンもWindowsなので子どもたちと操作環境が同じ、という点が主な理由です。費用の違いは多少ありますが、できることに大きな違いはありません。

### 市教育委員会教育審議員 草場 博志

予測困難な時代を迎え、日本の教育のあり方も大きく変わろうとしています。子どもたちが、将来力強く生きていく力を身に付けるために、文部科学省はICT機器を使った授業を「令和の学び」の標準的な姿としています。

市では、子どもたちの学びを保障するための学習ツールとして、電子黒板や、子どもたちに1人1台のタブレット端末などを配付しました。子どもたちの学びに対する興味・関心を高めるために、触れて、調べて、表現すること、自ら学び考え、主体的に対話的で深い学びの実現を目指しています。また、先日まで新型コロナウィルス感染症の拡大防止のため、学校は地区や出席番号で分けた分散登校を行っていました。子どもたちが自宅にいても授業に参加できるように、オンライン授業の配信に取り組んでいます。

市では他にも、各家庭のWi-Fi環境の整備をはじめ「まなびポケット」の活用など、家庭教育支援に取り組んでいます。タブレットなどによる子ども同士のトラブルを防止するための情報モラルの指導も、時代の変化に対応していかなければいけません。

市内小・中学校でICT機器が積極的に活用されることで、学校教育推進のキーワードである「志合せて夢実現プロジェクト」のさらなる推進を期待しています。



なかお こうたろう  
中尾 洸太郎 さん  
(西合志中央小6年)

以前の在宅学習は宿題のプリントを持ち帰るだけでしたが、オンライン授業だと電子黒板にみんなの姿が映るし、分からないところは質問もできるからやる気が出ます。タブレットを使った学習を通じて自分が作った作品をプレゼンテーションするなど、今後も新しい使い方にチャレンジしてみたいです。



みなと しんのすけ  
湊 真之介 教諭  
(西合志中央小)

タブレットが導入されたことにより、コロナ禍でも学びの保障ができるようになりました。子どもたちは飲み込みが早く、機器の使い方もすぐに覚えてしまいます。ICTを活用することは多くのメリットがありますので、家庭でも保護者と一緒に検索や学習動画の視聴など積極的に使ってほしいです。